

「フクシマの英雄」にこそ



60年生まれ。民主党副幹事長。96年に初当選。鳩山政権で国土交通副大臣、菅政権で首相補佐官。学生時代に「ピースポート」を創設した。

つじもと
きよみ
辻元 清美さん

衆院議員

民主党政権のとき、サッカーの「なでしこジャパン」に国民栄誉賞を出しました。3・11の後、みんなが暗い毎日を送っていたところにワールドカップで優勝した。あの時は国民こそっての納得感があったと思う。でも今回は、なんで今この2人なん

やる、という違和感が残ります。野球ならまず野茂英雄投手やる、という声もあるし。

今、本当にあげるべきは誰か。それは福島第一原発の現場で働く人たちですよ。地震直後、命がけで事故拡大を食い止めてくれた「フクシマ50（フイフティー）」。今日も、恐らく日本で一番しんどい現場で体を張ってくれている人々。彼らこそ受賞に値すると思うんです。

実際ス。ペインからは、消防士や警察官も含めた「フクシマの英雄」に皇太子賞が贈られた。

なのに日本では、たたえられるどころか待遇は悪化し、その姿もよく見えなくなっています。

この前、雑誌で作業員の座談会を読んでいたら、自分たちの勲章は胸につけるプラスチックの作業員証だけや、と自嘲気味に話しておられたんです。ハッとしました。いま日本の安全は彼らが頼りなのに、こんな思いをさせてたらあかんと。そこに今回の発表があり、「違うやろ」と気付いたわけです。

衆院予算委員会で安倍首相に質問しました。「賞は福島の作業員に出したらどうか」と。もしたら、この賞は「前人未到の大きな記録を残したり、記憶を残した方々」に出すものだろう、あまりにそっけない答弁が返ってきた。私は意地悪で聞いたわけではないんです。「まさか賞に値する働きをしてくれ

た」と、首相として感謝の言葉を述べるいい機会になるはずやと思っていましたよ。

事故の後、私は首相補佐官として官邸にいました。あのときの緊張感はずがかった。燃料棒を冷却できなかったら、東日本の3千万人が避難することになるかもしれない、と切羽詰まった瞬間がありましたから。

そんな国家の危機を切り抜けてくれた人に敬意を払うどころか、安倍さんは「そういう議論をここでやるのはいかがか」と答えたんですよ。ああ、この人は事故の本質、危機のリアリテイというものを感じていないんやな、と実感しましたね。

今から思えば、民主党政権のときにこの賞を出しておいたらよかった。正直、そこまで思いがいたらなかったんですよ。そこは反省しています。

ただ今回、放射能との戦いに命をかけた人々に冷たかった安倍さんを見て、少し意外でしたね。あれは戦争に匹敵する戦いやったのに。「我が国と郷土を愛する」と叫ぶ安倍さんなら称賛していいはずなのに、って。

まあ、「天敵」の私が質問したから、反発したのかもしれないけれど。（聞き手・萩一晶）